平成29年３月期
第２四半期決算(非連結)
説明資料

FUJITOMI

株式会社フジトミ

JPX
東証JASDAQ上場

証券コード8740

目　　次

事業の内容	・・・	1
事業所	・・・	3
平成29年３月期第２四半期決算の概要	・・・	4
業績概況	・・・	6
業績推移	・・・	7
貸借対照表	・・・	8
セグメント別の業績概要	・・・	9
＜投資サービス事業＞四半期営業収益の推移	・・・	11
＜商品先物取引＞営業収益の推移	・・・	12
＜商品先物取引＞受取手数料の市場別内訳	・・・	13
＜商品先物取引＞自己売買損益の市場別内訳	・・・	14
＜生活・環境事業＞四半期営業収益の推移	・・・	15
平成29年３月期業績予想について	・・・	16

本資料は、平成29年３月期第２四半期の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。

本資料は、９月30日時点でのデータを元に作成しております。

事　業　の　内　容

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、親会社（㈱小林洋行）及び関連会社2社（㈱日本ゴルフ倶楽部、 BLUE　EARTH㈱ ）により構成されております。
当社の事業内容は次のとおりであります。

（1）投資サービス事業

①商品先物取引業：商品先物取引法に基づき設置された商品取引所が開設する商品市場に上場されている各種の商品先物取引について、顧客の委託を受けて執行する業務（受託業務）及び自己の計算に基づき執行する業務（自己売買業務）を行っております。

②金融商品取引業：金融商品取引法に基づき設置された金融商品取引所が開設する金融商品市場に上場されている各種の金融商品取引について、顧客の委託を受けて執行する業務（受託業務）及び自己の計算に基づき執行する業務（自己売買業務）を行っております。

③その他　　：金融商品の媒介等及び金地金販売等を行っております。

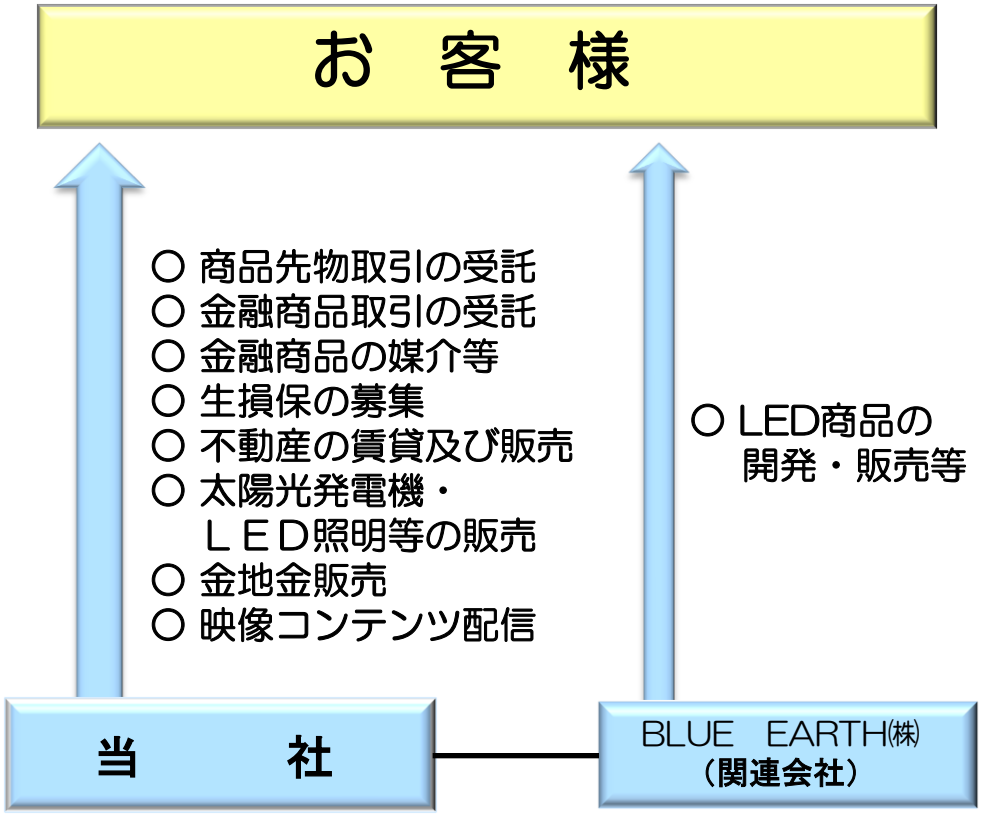
（2）生活・環境事業

①保険募集業務 ：生命保険の募集業務及び損害保険代理店業務を行っております。

②不動産業　　：不動産の賃貸及び不動産の販売を行っております。

③その他　　：太陽光発電機及びＬＥＤ照明等の販売、映像コンテンツ配信業務等を行っております。

事　業　の　内　容



≪関係会社の事業内容≫

＜親会社＞

㈱小林洋行（当社株式の51.79%を保有）

・グループ会社の管理及び不動産の賃貸

＜関連会社＞

㈱日本ゴルフ倶楽部

・ゴルフ場運営

ＢＬＵＥ　ＥＡＲＴＨ㈱

・ＬＥＤ商品の開発・販売等

※ 当社と親会社（㈱小林洋行）は別個に事業を営んでおり、当社が親会社所有ビルを賃借して本社として使用しているほか、当社と事業上の重要な関係はありません。

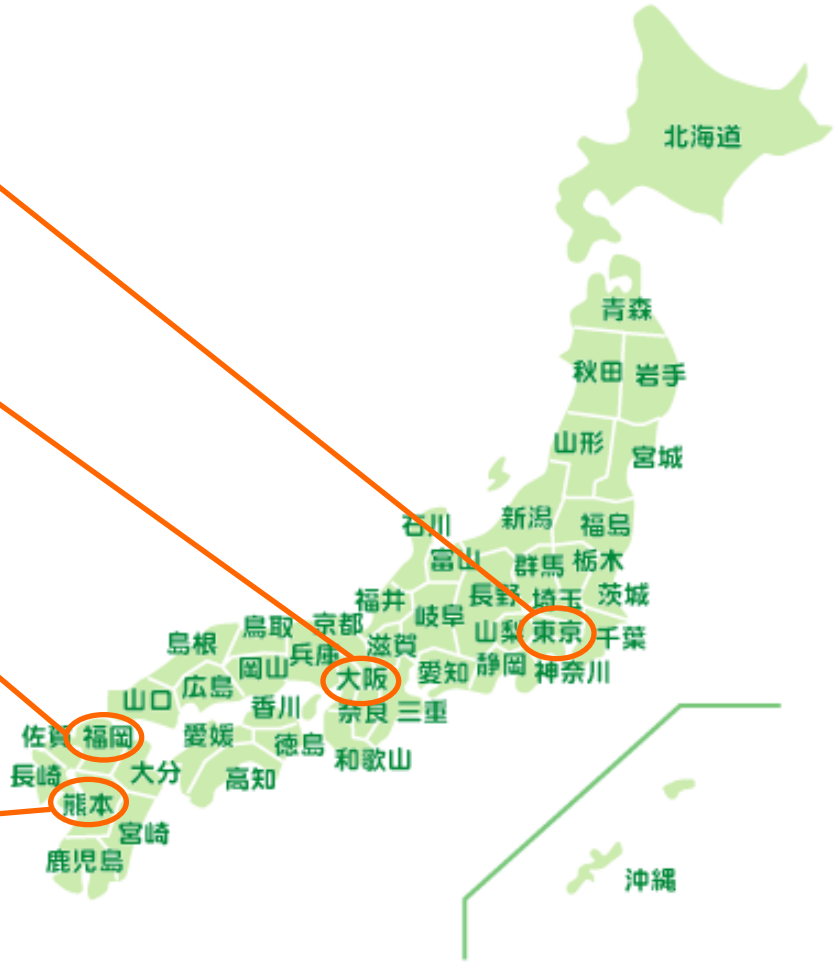
事　　業　　所

本　　社：東京都中央区日本橋蛎殻町
１－１５－５

大阪支店：大阪府大阪市中央区南船場
３－４－２６
※商品先物取引受託業務及び金融商品取引を行っております。

福岡営業所：福岡県福岡市中央区舞鶴
3－2－21
※生損保の募集業務を行っております。

熊本営業所：熊本県熊本市中央区帯山
４－４５－１
※生損保の募集業務を行っております。



平成29年３月期第２四半期決算の概要

＜経済環境及び経営成績 ①＞

当第２四半期累計期間のわが国経済は、企業収益の改善に足踏みがみられるものの依然高い水準にあり、雇用・所得環境の改善が続くなかで、穏やかな回復基調が続いておりますが、中国を始めアジア新興国等の減速や英国のＥＵ離脱問題による世界経済の下振れ懸念等から先行き不透明な状況で推移いたしました。

為替市場、証券市場につきましては、６月24日に英国のＥＵ離脱が決定すると一時１ドル100円を割り込み急激に円高が進み、日経平均は15,000円を割り込み年初来最安値となり、９月には３カ月ぶりに17,000円台を回復するなどやや持ち直しもみられましたが、７月中旬以降は概ね16,000円台でのボックス相場となっております。またドル円につきましては、７月以降円安方向に戻すものの８月は再び１ドル100円を割り込み、９月上旬には一時104円台になるものの下旬には100円台になるなど、円高圧力は依然強い状況となっております。

商品先物市場につきましては、主力の貴金属市場において円高などの影響もあり、上値が抑えられる展開となり、当第２四半期累計期間の国内商品取引所の出来高合計は1,336万枚（前年同四半期比4.7%増）となりました。主な市場別出来高は、貴金属市場が849万枚（同6.3%増）、石油市場が319万枚（同12.3%増）、農産物・砂糖市場が59万枚（同8.5%減）となっております。

なお、９月20日から株式会社東京商品取引所が新システムの運用を開始しました。新システムは、株式会社日本取引所グループ（ＪＰＸ）のデリバティブシステム（Ｊ－ＧＡＴＥ）及びＪＰＸ清算システムの共同利用であるため、商品と金融の垣根を越えて投資家にとっての利便性を向上させることが可能となり、既に株式会社大阪取引所においてデリバティブ取引を行う金融・証券市場のプレーヤー等の参加による商品先物取引市場の流動性拡大、ひいては商品先物業界の発展が期待されております。（続く）

平成29年３月期第２四半期決算の概要

＜経済環境及び経営成績 ②＞

このような環境のなか、当社は営業利益の黒字化定着を目指し、「投資サービス事業」につきましては、主力である商品先物取引業に加え東京金融取引所で上場されている取引所為替証拠金取引（くりっく365）、取引所株価指数証拠金取引（くりっく株365）の取扱いを開始するなど、取扱金融商品の充実による幅広い顧客層の獲得に向けた体制の整備を進めております。

また、「生活・環境事業」につきましては、保険業法改正に伴う体制整備義務を確実に社内に定着させるとともに、所属員の総合的な提案スキルを向上し、生損保クロスセリングの推進等により顧客基盤の拡充と保全を図って参りました。不動産事業では、短期的な収益獲得案件を中心に、安定収益確保を目的とした優良な賃貸物件等の取得に努め、太陽光発電機の販売につきましては、予想収益を確保できる物件の取得に注力して新規顧客獲得に努め、ＬＥＤ照明の販売につきましては、補助金制度を活用した大型案件の受注に努めました。

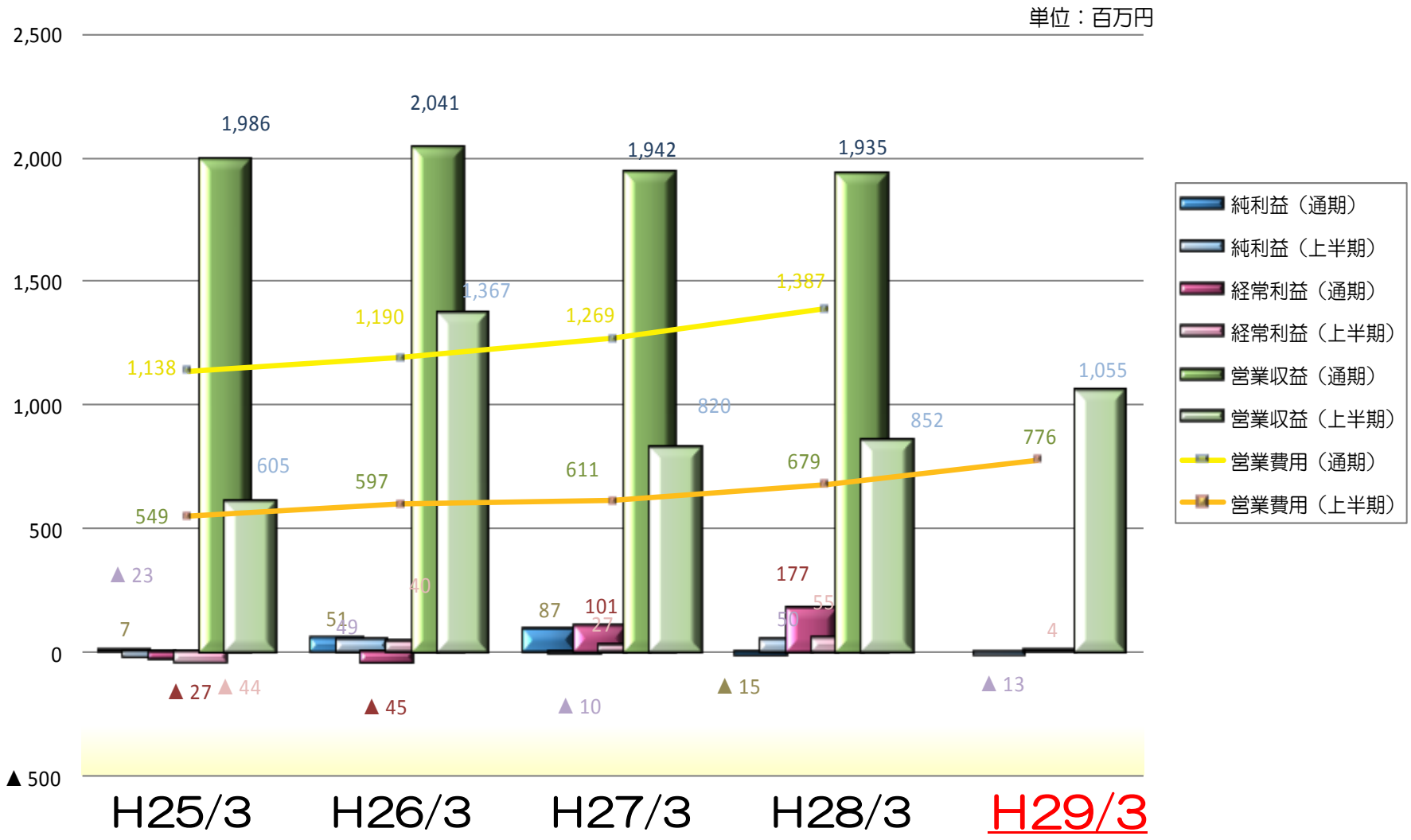
その結果、当第２四半期累計期間の業績は次の通りとなりました。

営業収益	1,055百万円（前年同四半期比23.8%増）
営業総利益	754百万円（前年同四半期比5.0%増）
営業費用	776百万円（前年同四半期比14.2%増）
営業損失	21百万円（前年同四半期は営業利益38百万円）
経常利益	４百万円（前年同四半期比91.9%減）
四半期純損失	13百万円（前年同四半期は純利益50百万円）

業　績　概　況

（単位：百万円）	H28年３月期 第２四半期	H29年３月期 第２四半期
営業収益	852	1,055
内　受取手数料	573	719
営業利益	38	△21
経常利益	55	4
当期純利益	50	△13
一株当たり当期純利益	7.60円	△2.09円
一株当たり純資産額	478.36円	460.92円
自己資本比率	48.2%	45.2%

業　績　推　移


単位：百万円
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
▲500
1,986
2,041
1,942
1,935
1,138
1,190
1,269
1,387
1,367
820
852
1,055
605
597
611
679
776
549
▲23
7
▲27
▲44
51
49
▲45
40
87
101
27
▲10
177
55
50
▲15
4
▲13
H25/3
H26/3
H27/3
H28/3
H29/3
純利益（通期）
純利益（上半期）
経常利益（通期）
経常利益（上半期）
営業収益（通期）
営業収益（上半期）
営業費用（通期）
営業費用（上半期）

貸　借　対　照　表

（単位：百万円）	H27．9期	H28．9期
流動資産合計	4,811	4,815
内　現金及び預金	982	1,060
内　販売用不動産 （含　仕掛販売用不動産）	404	138
固定資産合計	1,767	1,940
内　投資有価証券	451	409
内　土地及び建物	477	650
資産合計	6,578	6,755
流動負債合計	3,199	3,460
内　預り証拠金 （含　代用有価証券）	3,067	2,874
固定負債合計	179	210
負債合計	3,409	3,701
純資産合計	3,168	3,053
内　その他有価証券評価差額金	△96	△104

セグメント別の業績概要

１.投資サービス事業

当第２四半期累計期間の投資サービス事業の営業収益及び営業総利益は636百万円（前年同四半期比1.3%増）、営業費用は655百万円（同17.2%増）、セグメント損失は19百万円（前年同四半期はセグメント利益68百万円）となりました。

①商品先物取引受託業務

商品先物取引受託業務の受取手数料は601百万円（前年同四半期比18.0%増）となりました。

②金融商品取引受託業務

平成28年１月より取扱いを開始しました金融商品取引受託業務の受取手数料は46百万円となりました。

③商品先物取引及び金融商品取引自己売買業務

商品先物取引及び金融商品取引自己売買業務の売買損は11百万円（前年同四半期は118百万円の利益）となりました。

④その他

金融商品の媒介に係わる受取手数料は0.1百万円（前年同四半期比79.5%減）となりました。

セグメント別の業績概要

2.生活・環境事業

当第２四半期累計期間の生活・環境事業の営業収益は419百万円(前年同四半期比87.1%増)、営業総利益は117百万円（同30.8%増）、営業費用は120百万円（同0.04%増）、セグメント損失は２百万円(前年同四半期はセグメント損失30百万円)となりました。

①保険募集業務

保険募集業務の受取手数料は72百万円（前年同四半期比14.4%増）となりました。

②不動産業

不動産賃貸料収入は23百万円（前年同四半期比27.7%減）、不動産販売の売上高は290百万円（同172.3%増）となりました。

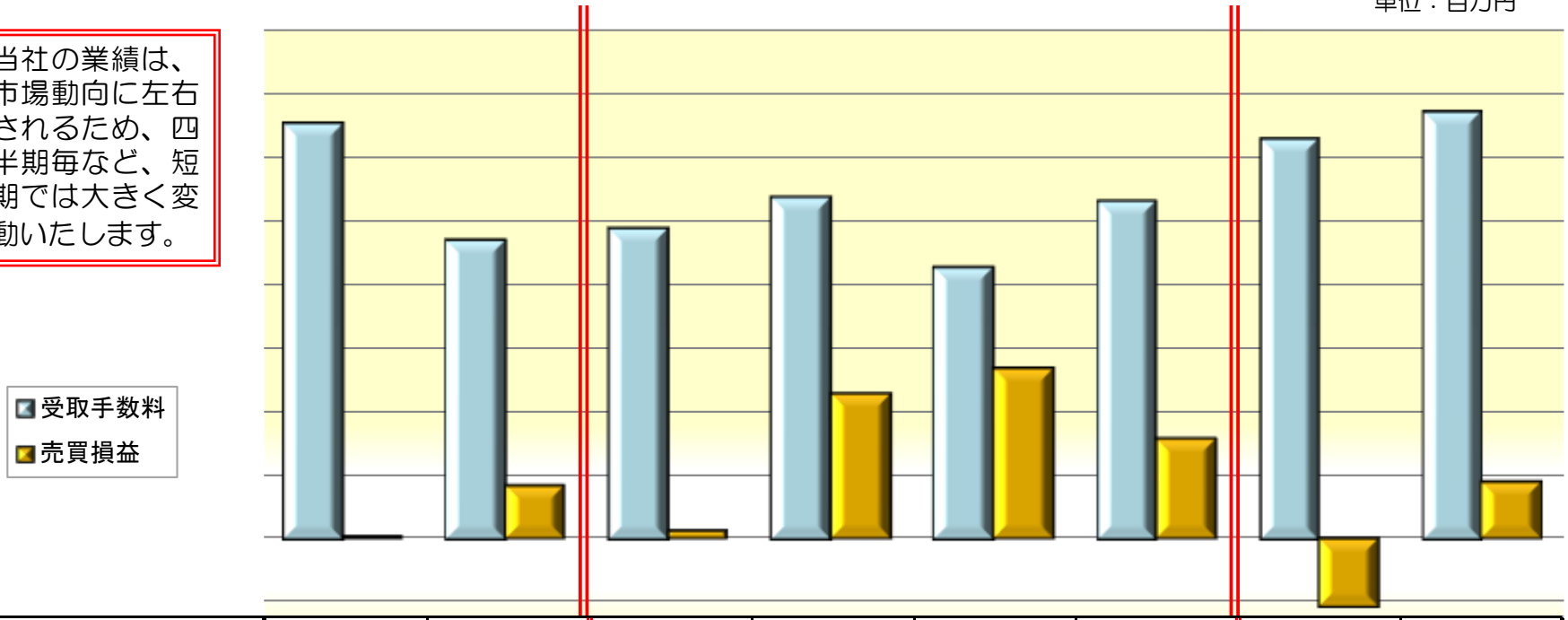
③その他

太陽光発電機・ＬＥＤ照明等の売上高は11百万円（前年同四半期比26.2%減）、映像コンテンツ配信の売上高は18百万円（同0%）となりました。

＜投資サービス事業＞四半期営業収益の推移

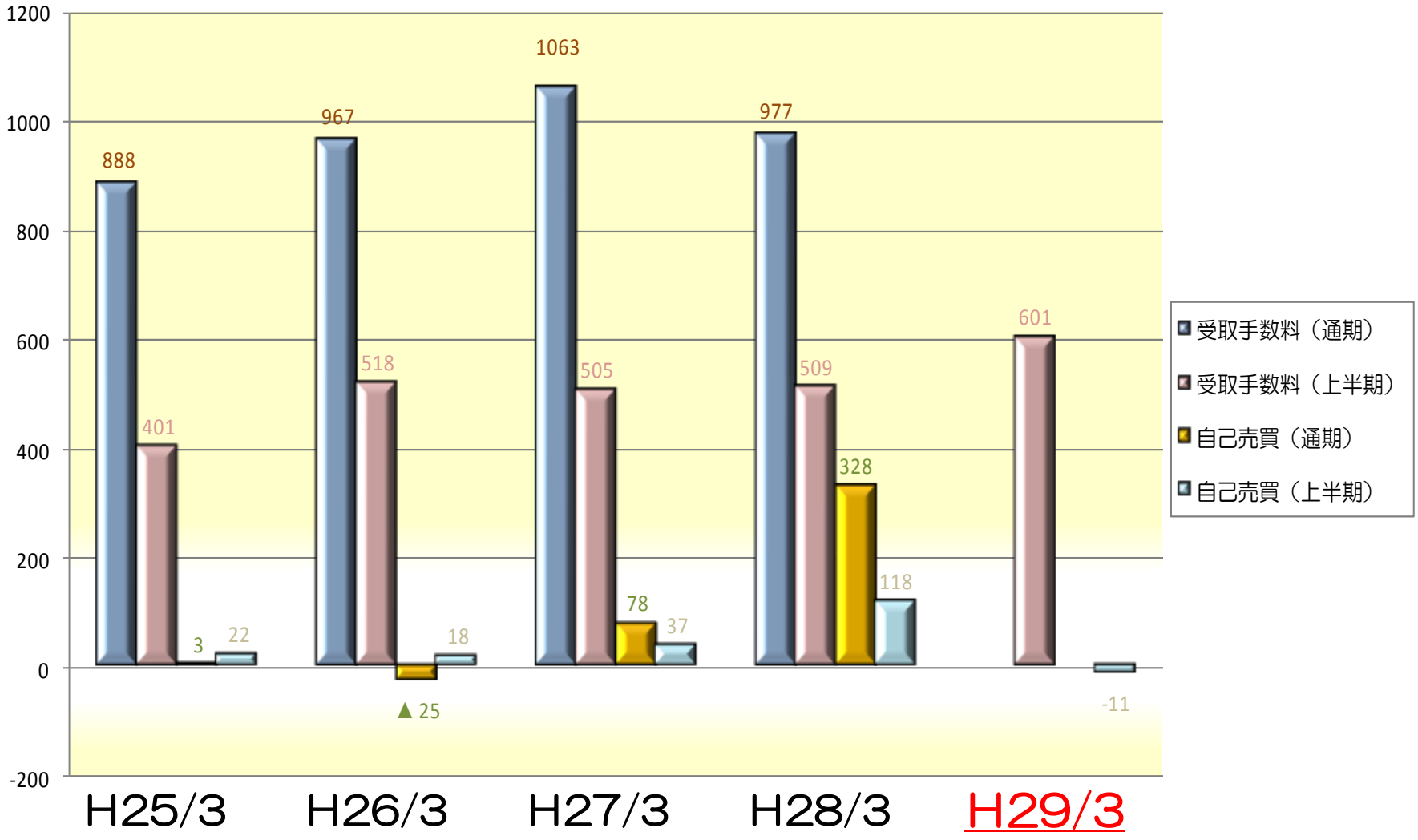
当社の業績は、市場動向に左右されるため、四半期毎など、短期では大きく変動いたします。

単位：百万円

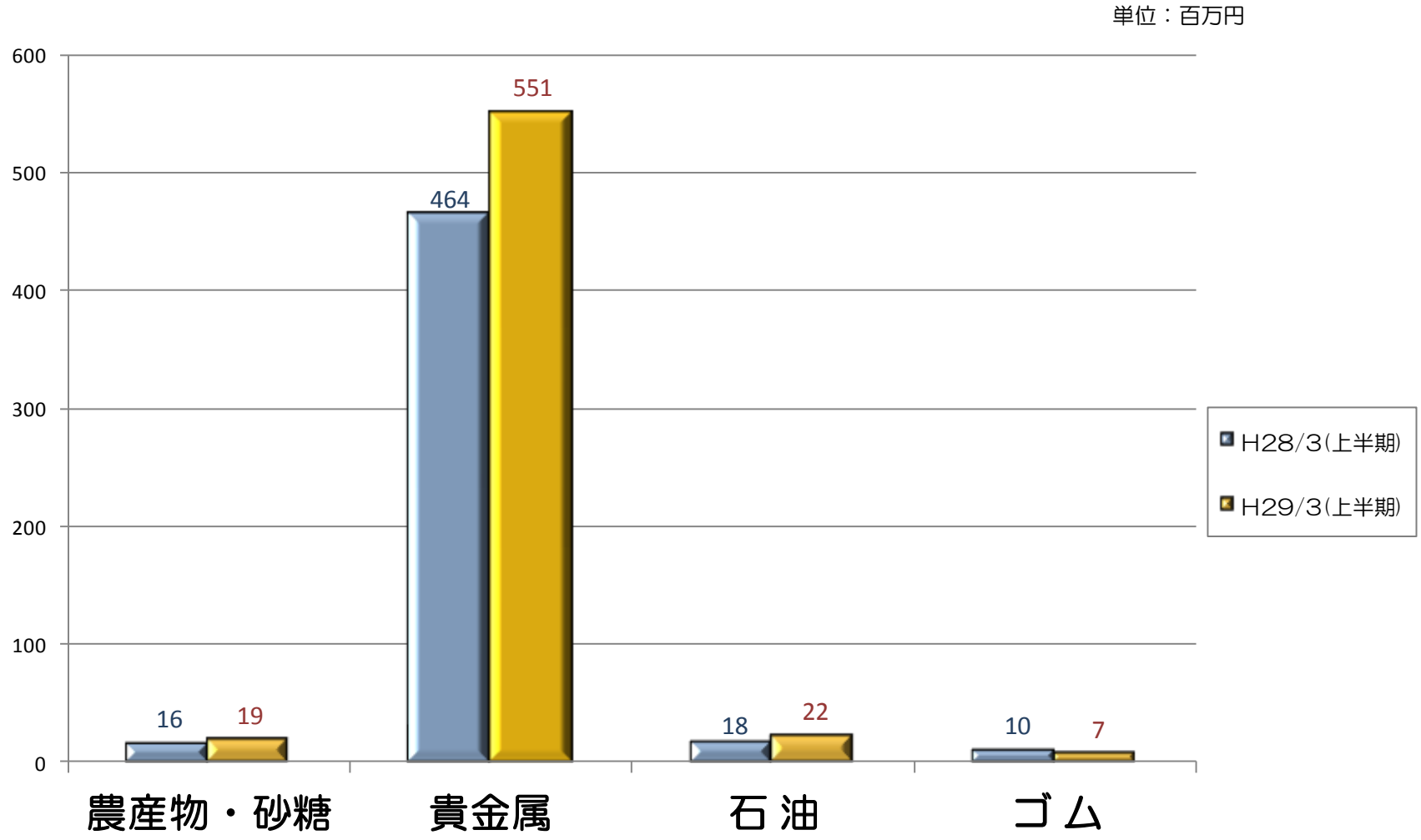


（単位：百万円）	H27／3 3Q	H27／3 4Q	H28／3 1Q	H28／3 2Q	H28／3 3Q	H28／3 4Q	H29／3 1Q	H29／3 2Q
受取手数料	324	233	242	267	212	264	313	334
商品先物取引	324	233	242	266	211	256	291	309
金融商品媒介等	0.3	0.1	0.3	0.5	0.3	0.2	0.1	0.08
金融商品取引	－	－	－	－	－	7	21	24
売買損益	0.1	40	5	112	132	77	△ 54	43
商品先物取引	0.1	40	5	112	132	78	△ 52	40
金融商品取引	－	－	－	－	－	△ 0.1	△ 2	2

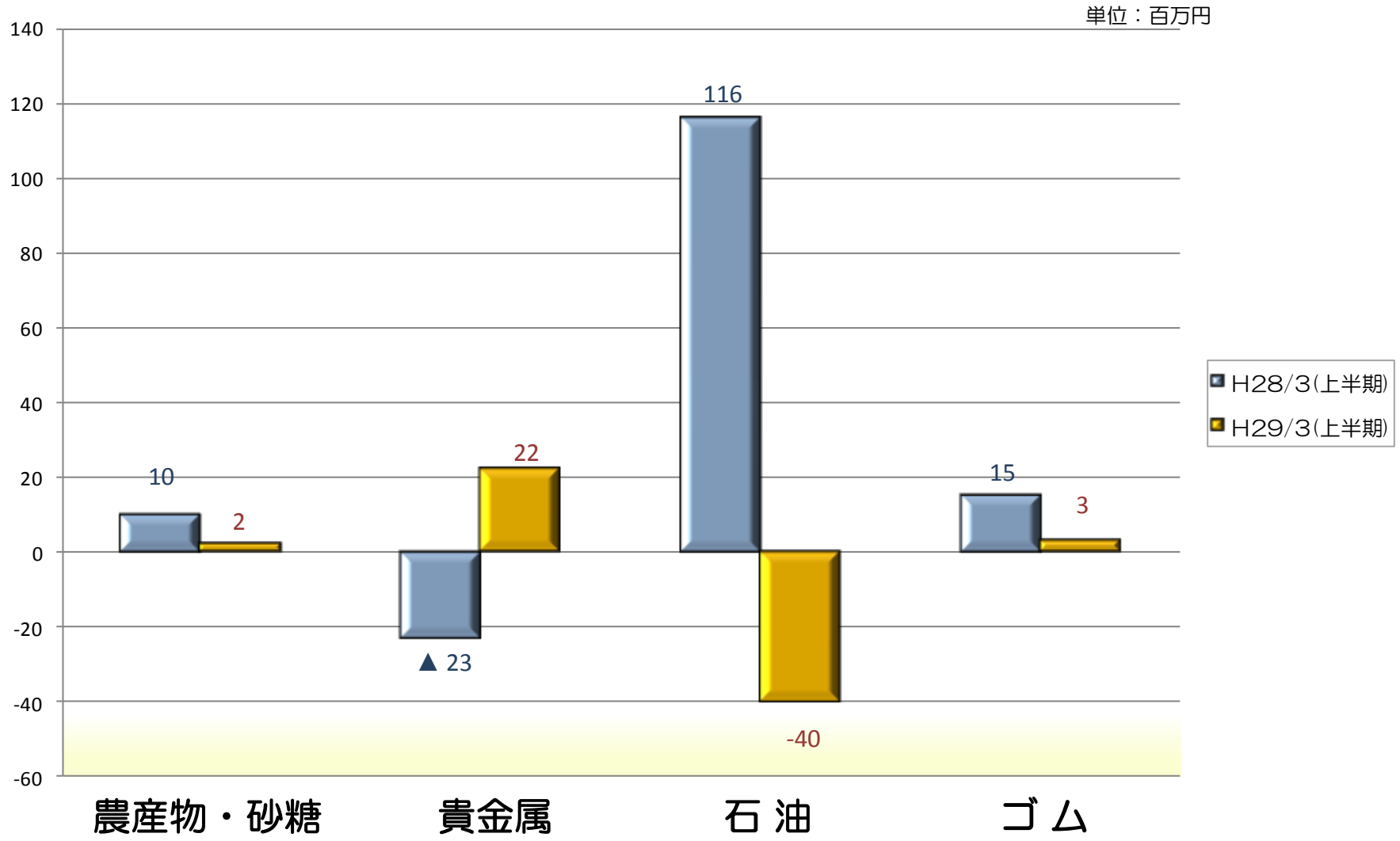
＜商品先物取引＞営業収益の推移



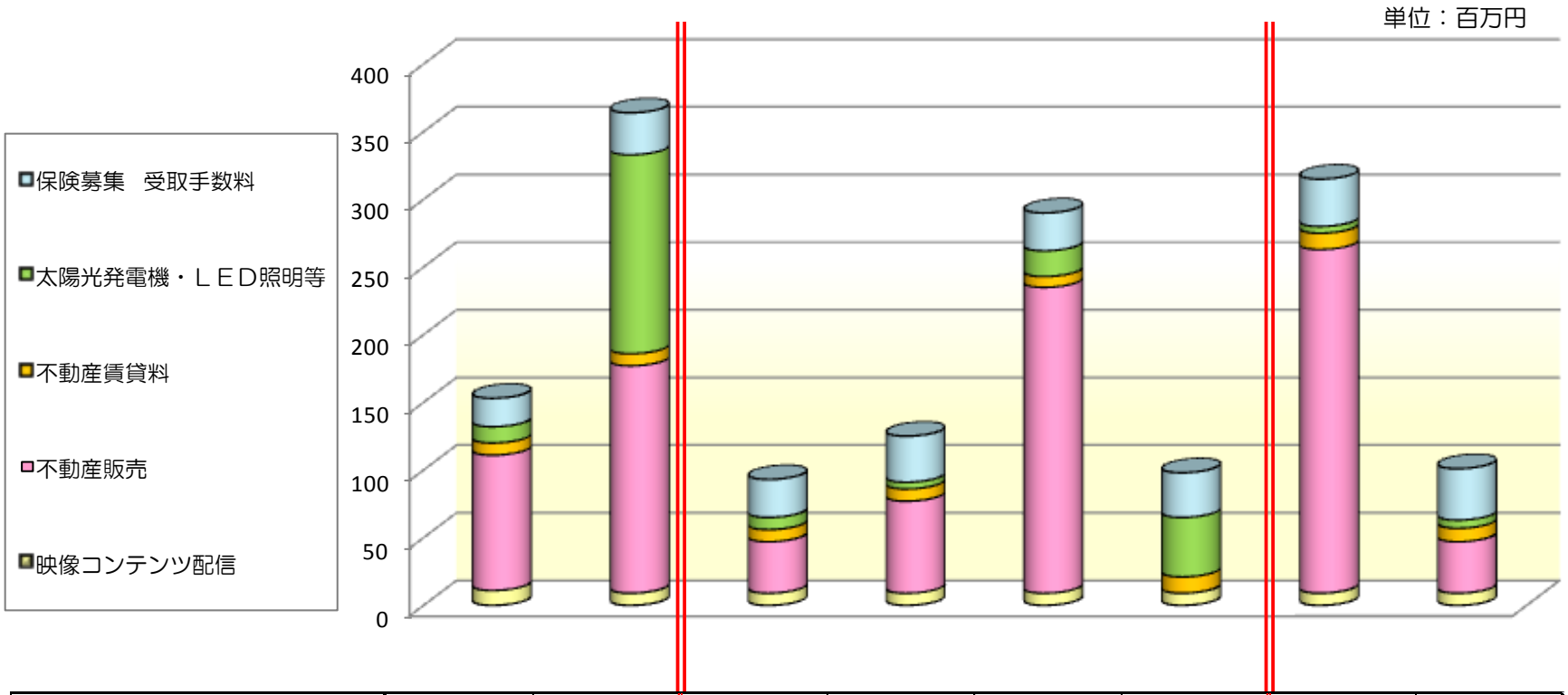
＜商品先物取引＞受取手数料の市場別内訳



＜商品先物取引＞自己売買損益の市場別内訳



＜生活・環境事業＞四半期営業収益の推移



（単位：百万円）	H27／3 3Q	H27／3 4Q	H28／3 1Q	H28／3 2Q	H28／3 3Q	H28／3 4Q	H29／3 1Q	H29／3 2Q
保険募集　受取手数料	21	31	28	34	28	33	35	36
太陽光発電機・ＬＥＤ照明等	12	147	9	5	19	44	5	6
不動産賃貸料	9	9	9	9	8	12	12	10
不動産販売	100	168	38	68	226	0	254	36
映像コンテンツ配信	11	9	9	9	9	9	9	9

平成29年３月期業績予想について

●平成29年３月期業績予想について

当社は、主要な事業である商品先物取引業の業績が市場動向等に大きく左右されること、また、不動産の販売についても確度の高い業績予想を行うことが難しいため、平成29年３月期の業績予想は公表しておりません。

平成29年３月期においては、前事業年度に続き営業利益の黒字化を目指しております。第３四半期以降においても営業体制の強化、顧客基盤の拡大による黒字体質の定着に努めてまいりますので、引続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

FUJITOMI

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社　フジトミ

総務部株式課

E-mail：keiei-kikaku2@fujitomi.co.jp